



UNESCO
NGO JAPAN
群馬県ユネスコ
群馬県ユネスコ連絡協議会
No.68・69

会長 関口 実 副会長 塚越平人・吉田和美・矢野 薫 事務局 若田部茂子 事務局 群馬県教育委員会生涯学習課

引き継ごう 人類の宝物(いつまでも震災を忘れない)



いあいせい
群馬県ユネスコ連絡協議会
会長 関口 実

新年明けまして、おめでとうございます。日本の経済に明るいきざしが見えておめでたさに実感がこもってきました。今年には、大いに期待したいところです。

私たちのユネスコはどうでしょう。十年間にわたって、日本ユネスコ協会連盟が充実に力を入れてきた日本国内のユネスコスクールが六五三校に達したと伝えられています。日本には一万を越す小・中・高校があるので五〜六%といったところでしょう。この数字をどう評価したらよいのでしょうか。

さて、今年度の本県のユネスコ界に目を転ずると、本年の十月二十五日(土)、高崎市を会場に開催される「関東ブロックユネスコ活動研究会イン群馬」が待ち構えております。この研究会には、県外(東京、埼玉、

栃木、茨城、千葉)各都県から二百人〜三百人のユネスコ関係者が群馬にやって来ます。これらの人達に気分よくユネスコの研究を深めていただくために、群馬県ユネスコ連絡協議会の中に、昨年五月群馬大会開催のための実行委員会を組織し、鋭意、開催準備を進めているところです。

そもそも、このブロック大会は、ブロック内の各都県ユネスコが毎年持ち回りで開催しているものです。従って、各開催県は、その前年度の開催の出来ばえに劣ることのないようにと頑張ってきました。このことが、いつのまにか開催県にとって手間の面でも財政面でも過重負担となっているのが実態です。

そこで、日本ユネスコ協会連盟は、この実情を是正するため、昨年六月末、各都県ユネスコ協会に「主管

ユネスコ協会の人手面、財政面の負担軽減について理解、協力を願いたい」と指導的通知を出しました。ブロック大会の今後の開催にあたっては、日本ユネスコ協会連盟からの通知の趣旨を十二分に理解し、適正なブロック研究会の開催となるよう心したいものです。

平成26年度関東ブロックユネスコ活動研究会
10月25日(土)開催はオール群馬の
こころで成功させよう!!